

ご注意事項

本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。

本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なる場合がございます。また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいませようをお願いいたします。

商号等：楽天証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

投資にかかる手数料等およびリスク

外国株式等の取引にかかるリスク

外国株式等は、株価（価格）の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、為替相場の変動等により損失（為替差損）が生じるおそれがあります。上場投資信託（ETF）は連動対象となっている指数や指標等の変動等、上場投資証券（ETN）は連動対象となっている指数や指標等の変動等や発行体となる金融機関の信用力悪化等、上場不動産投資信託証券（REIT）は運用不動産の価格や収益力の変動等により、損失が生じるおそれがあります。

外国株式等の取引にかかる費用

1回のお取引金額で手数料が決まります。

分類 取引手数料

米国株式 約定代金の0.45%（0.495%）・最低手数料：0米ドル・上限手数料：20米ドル（22米ドル）

中国株式 約定代金の0.5%（0.55%）・最低手数料：500円（550円）・上限手数料：5,000円（5,500円）

アセアン株式 約定代金の1.00%（1.10%）・最低手数料：500円（550円）・手数料上限なし

※（）内は税込金額

※米国株式の売却時は上記の手数料に加え、別途SEC Fee（米国現地取引所手数料）がかかります。詳しくは当社ウェブページ上でご確認ください。

※中国株式・アセアン株式につきましては、カスタマーサービスセンターのオペレーター取次ぎの場合、通常の手数料に2,000円（税込2,200円）が追加されます。

ETF／ETNのリスク(抜粋)

複雑な商品設計のETF/ETNについての注意点

ETF/ETNの中には、ボラティリティ指数先物を対象としたETF/ETNやカバードコール戦略を取り入れたETF/ETNなど、先物取引やオプション取引を組み入れている場合があります。そのようなETF/ETNは、先物のルールによる価格変動、対象指数等そのものの急激な値動き等によって想定外の値動きをする場合があります。

また、レバレッジ型ETF/ETNやインバース型ETF/ETNは、原指標の日々の変動率に一定の倍数を乗じて算出されるレバレッジ型指標に連動するよう運用されます。そのため、値動きや想定されるリターンは、通常のETF/ETNとは異なる特性を有しています。

複雑な商品設計のETF/ETNに投資される際は、商品設計を開示書類等でご確認していただき、十分ご理解していただいた上で投資をしてください。

ETFにおける信用リスク

リンク債型ETFやOTCデリバティブ型ETFなどにおいては、ETFが投資に用いるリンク債の発行体またはETFのOTCデリバティブ取引の相手方の財務状況の悪化などにより基準価額が大きく下落する信用リスクが存在します。これらのETFの投資にあたっては、商品設計を予めご確認ください。

ETN発行体の信用リスク

ETNは、裏付となる資産を保有せず、発行体となる金融機関の信用力をもとに価格が特定の指標に連動することを保証する債券です。そのため、発行体の倒産や財務状況の悪化、信用格付の引き下げ等の影響により、ETNの価格が下落または無価値となる可能性、また、償還時に発行体が償還金額を支払わない、または支払うことができない可能性があります。このような結果、損失が生じる可能性があります。



















早期償還等のその他のリスク

市場動向の急変時や資産総額が小さくなった場合など、管理会社等が運用の継続が困難であると判断した場合は、運用を終了し、繰り上げ償還をする可能性があります。取引所が定める上場廃止基準に該当した場合などは、上場廃止となる可能性があります。

米国株投資をオススメする理由

- ・ 株式市場の成長性
 - 指数連動型 インデックスの年間リターンが直近20年は8%
 - 魅力的な企業 GAFAの時価総額（770兆円）が日経全体（760兆円） 越え（2021年8月）
 - 年金運用 日本のNISAやつみたてNISAと同じような仕組みが充実
→株式投資での資産運用がなければ年金生活がほぼ不可能
 - 米国財務省とFRBの経済へのバックアップ（政策金利0、金融緩和） →但し今後は縮小される

魅力的な企業

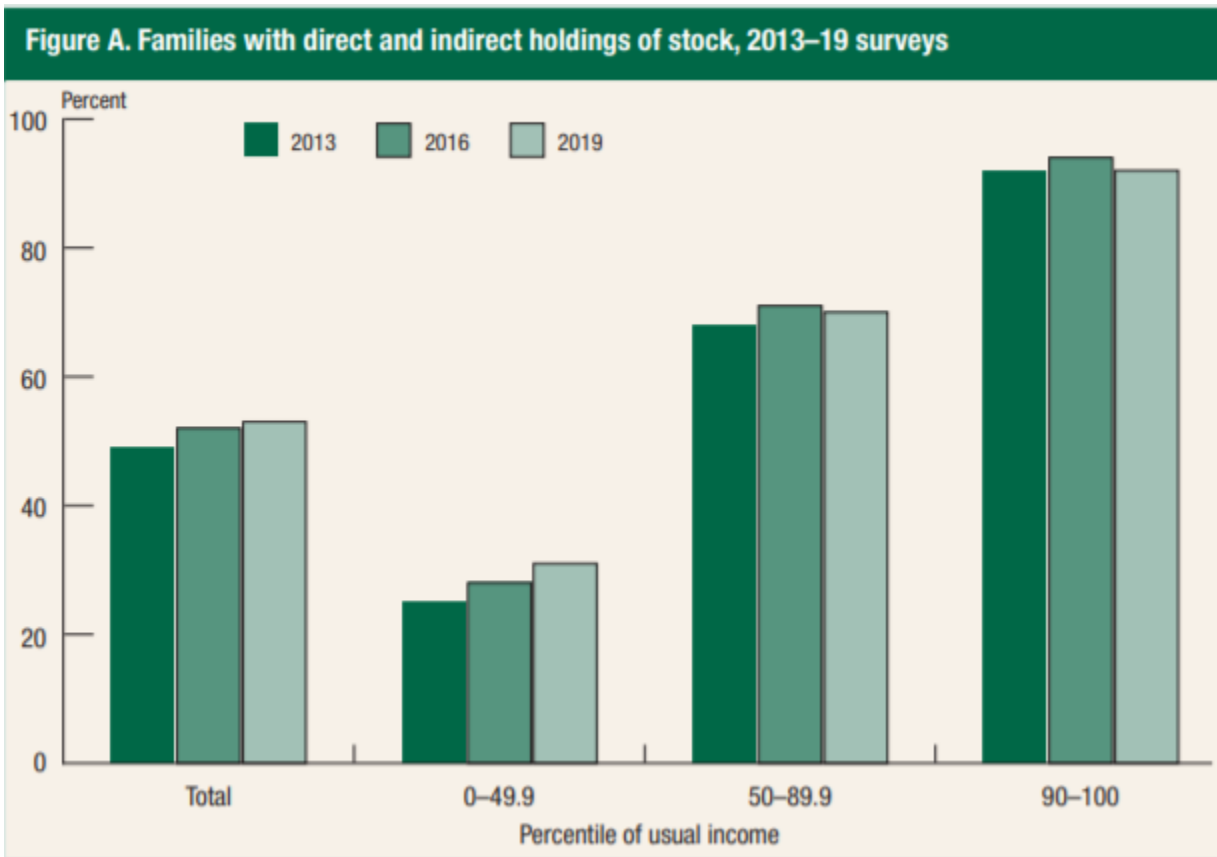
<p>01 Apple</p> <p>+38% \$322,999m</p> 	<p>02 Amazon</p> <p>+60% \$200,667m</p> 	<p>03 Microsoft</p> <p>+53% \$166,001m</p> 	<p>04 Google</p> <p>-1% \$165,444m</p> 	<p>05 Samsung</p> <p>+2% \$62,289m</p> 	<p>06 Coca-Cola</p> <p>-10% \$56,894m</p> 
<p>07 Toyota</p> <p>-8% \$51,595m</p> 	<p>08 Mercedes-Benz</p> <p>-3% \$49,268m</p> 	<p>09 McDonald's</p> <p>-6% \$42,816m</p> 	<p>10 Disney</p> <p>-8% \$40,773m</p> 	<p>11 BMW</p> <p>-4% \$39,756m</p> 	<p>12 Intel</p> <p>-8% \$36,971m</p> 
<p>13 Facebook</p> <p>-12% \$35,178m</p> 	<p>14 IBM</p> <p>-14% \$34,885m</p> 	<p>15 Nike</p> <p>+6% \$34,388m</p> 	<p>16 Cisco</p> <p>-4% \$34,119m</p> 	<p>17 Louis Vuitton</p> <p>-2% \$31,720m</p> 	<p>18 SAP</p> <p>+12% \$28,011m</p> 

魅力的な企業

順位	日本企業	時価総額	順位	米国企業	時価総額
1位	トヨタ自動車	25兆円	1位	アップル	121兆円
2位	NTT	10.8兆円	2位	マイクロソフト	120兆円
3位	NTTドコモ	10.1兆円	3位	アマゾンドットコム	96兆円
4位	ソフトバンクグループ	9.8兆円	4位	グーグル	95兆円
5位	ソニー	9.4兆円	5位	フェイスブック	60兆円
6位	キーエンス	8兆円	6位	バークシャーハサウェイ	57兆円
7位	三菱UFJ	7.6兆円	7位	JPモルガンチェース	44兆円
8位	KDDI	7.5兆円	8位	ビザ	39兆円
9位	ファストリテーリング	7兆円	9位	J&J	38兆円
10位	武田薬品	6.9兆円	10位	P&G	34兆円
	合計	102.1兆円		合計	704兆円

R 2020年1月時点のデータ、2020年8月末GAFA770兆円で日系全体を上回る。

年金運用



2019年の米国世帯株式所有率53%

米国株式資産は32%

日本株式資産は9%

米国では中間層以上の株式保有率が70%

上位中間層は90%

それに対して中間層以下の保有率は30%

中央値

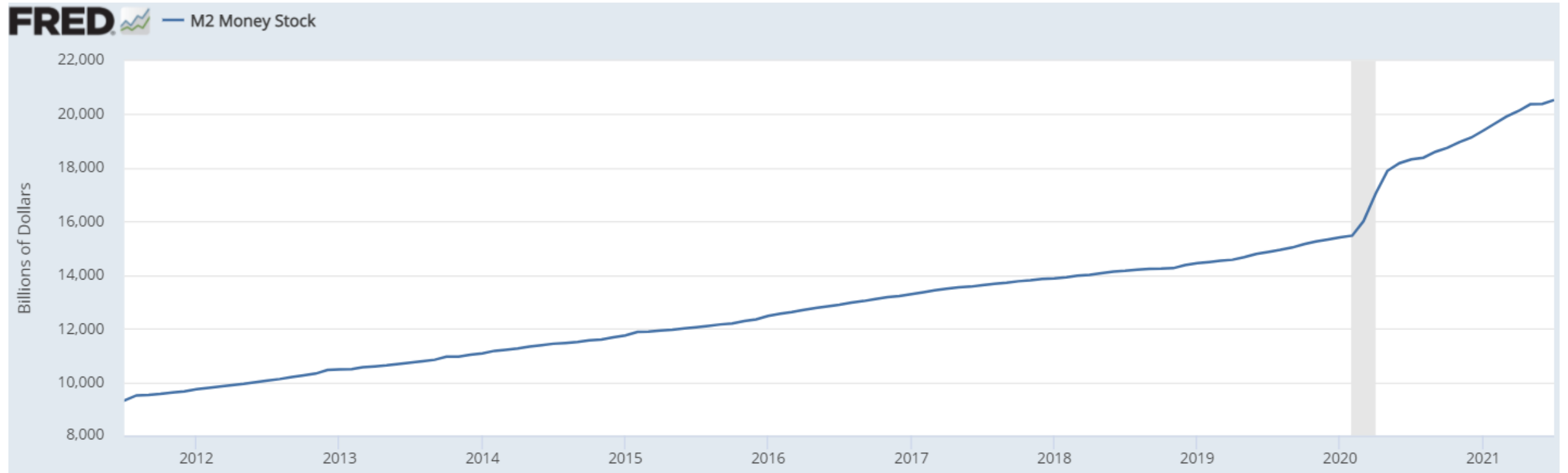
中間層以下は1万ドル

中間層以上は4万ドル

上位10%は44万ドル

<https://www.federalreserve.gov/publications/files/scf20.pdf>

史上最大の金融緩和



<https://fred.stlouisfed.org/series/M2SL>

史上最大の金融緩和



<https://fred.stlouisfed.org/series/M2SL>

ポートフォリオの組み方

- ・コア&サテライト戦略

この戦略は投資方針の主軸を決めて、もしご自身で少しデコレーションを加えたい場合はサテライトとして投資をしていく方針です。

3種類の例を挙げてみます。

考え方としてはコアで安定感をだして、サテライトで自分好みの少しリスクを取った銘柄を選択していく方式と考えてもらえればよいと思います。

3種類の例を挙げてみます。

例) インデックスETFコア

例) 配当コア

例) 個別株コア

ポートフォリオの組み方

組む前にまずは非課税口座を作ろう！NISAとつみたてNISA

項目		つみたてNISA	NISA
限度額		年間40万円	年間120万円
運用期間		20年	5年
運用商品		限定した投資信託とETF	外国株式含めた株式・投資信託 ・ETF・REIT
資金の引き出し		いつでも可能	いつでも可能
税制優遇	拠出時	優遇措置無し	優遇措置無し
	運用時	運用益が非課税 (最長20年間)	運用益が非課税 (最長5年間)
	払出時	非課税	非課税

ポートフォリオの組み方

コア&サテライト戦略

インデックスETFコア

なぜインデックスETFなのか？セクターETFでもいいのではないか？

セクターETFとは11種類のセクターが存在していて、そのセクターの企業で構成されたETF。

1. 生活必需品セクター
2. ヘルスケアセクター
3. 公益事業セクター
4. 情報技術セクター
5. 資本財セクター
6. エネルギーセクター
7. 通信サービスセクター
8. 一般消費財セクター
9. 金融セクター
10. 素材セクター
11. 不動産セクター

ポートフォリオの組み方 (セクター)

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	YTD
	ENRS 34.4%	CONS -15.4%	INFT 61.7%	REAL 32.3%	UTIL 19.9%	FINL 28.8%	COND 43.1%	REAL 30.2%	COND 10.1%	ENRS 27.4%	INFT 38.8%	HLTH 6.5%	INFT 50.3%	INFT 43.9%	ENRS 45.6%
	MATR 22.5%	HLTH -22.8%	MATR 48.6%	COND 27.7%	CONS 14.0%	COND 23.9%	HLTH 41.5%	UTIL 29.0%	HLTH 6.9%	TELS 23.5%	MATR 23.8%	UTIL 4.1%	TELS 32.7%	COND 33.3%	FINL 25.7%
	UTIL 19.4%	UTIL -29.0%	COND 41.3%	INDU 26.7%	HLTH 12.7%	REAL 19.7%	INDU 40.7%	HLTH 25.3%	CONS 6.6%	FINL 22.8%	COND 23.0%	COND 0.8%	FINL 32.1%	TELS 23.6%	REAL 23.3%
	INFT 16.3%	TELS -30.5%	REAL 27.1%	MATR 22.2%	REAL 11.4%	TELS 18.3%	FINL 35.6%	INFT 20.1%	INFT 5.9%	INDU 18.9%	FINL 22.2%	INFT -0.3%	S&P 31.5%	MATR 20.7%	TELS 19.7%
	CONS 14.2%	COND -33.5%	S&P 26.5%	ENRS 20.5%	TELS 6.3%	HLTH 17.9%	S&P 32.4%	CONS 16.0%	REAL 4.7%	MATR 16.7%	HLTH 22.1%	REAL -2.2%	INDU 29.4%	S&P 18.4%	INDU 16.4%
	INDU 12.0%	ENRS -34.9%	INDU 20.9%	TELS 19.0%	COND 6.1%	S&P 16.0%	INFT 28.4%	FINL 15.2%	TELS 3.4%	UTIL 16.3%	S&P 21.8%	S&P -4.4%	REAL 29.0%	HLTH 13.5%	S&P 15.3%
	TELS 11.9%	S&P -37.0%	HLTH 19.7%	S&P 15.1%	ENRS 4.7%	INDU 15.4%	CONS 26.1%	S&P 13.7%	S&P 1.4%	INFT 13.9%	INDU 21.0%	CONS -8.4%	COND 27.9%	INDU 11.1%	MATR 14.5%
	HLTH 7.2%	INDU -39.9%	FINL 17.2%	CONS 14.1%	INFT 2.4%	MATR 15.0%	MATR 25.6%	INDU 9.8%	FINL -1.5%	S&P 12.0%	CONS 13.5%	TELS -12.5%	CONS 27.6%	CONS 10.8%	INFT 13.8%
	S&P 5.5%	REAL -42.3%	CONS 14.9%	FINL 12.1%	S&P 2.1%	INFT 14.8%	ENRS 25.1%	COND 9.7%	INDU -2.5%	COND 6.0%	UTIL 12.1%	FINL -13.0%	UTIL 26.4%	UTIL 0.5%	HLTH 11.9%
	COND -13.2%	INFT -43.1%	ENRS 13.8%	INFT 10.2%	INDU -0.6%	CONS 10.8%	UTIL 13.2%	MATR 6.9%	UTIL -4.8%	CONS 5.4%	REAL 10.9%	INDU -13.3%	MATR 24.6%	FINL -1.7%	COND 10.3%
	REAL -17.9%	MATR -45.7%	UTIL 11.9%	UTIL 5.5%	MATR -9.6%	ENRS 4.6%	TELS 11.5%	TELS 3.0%	MATR -8.4%	REAL 3.4%	ENRS -1.0%	MATR -14.7%	HLTH 20.8%	REAL -2.2%	CONS 5.0%
	FINL -18.6%	FINL -55.3%	TELS 8.9%	HLTH 2.9%	FINL -17.1%	UTIL 1.3%	REAL 1.6%	ENRS -7.8%	ENRS -21.1%	HLTH -2.7%	TELS -1.3%	ENRS -18.1%	ENRS 11.8%	ENRS -33.7%	UTIL 2.4%

<https://novelinvestor.com/sector-performance/>



ポートフォリオの組み方（セクター）

Abbr.	Sector Index	Annual	Best	Worst
COND	S&P 500 Consumer Discretionary Index	13.05%	43.1%	-33.5%
CONS	S&P 500 Consumer Staples Index	10.40%	27.6%	-15.4%
ENRS	S&P 500 Energy Index	0.86%	34.4%	-34.9%
FINL	S&P 500 Financials Index	3.13%	35.6%	-55.3%
HLTH	S&P 500 Health Care Index	11.00%	41.5%	-22.8%
INDU	S&P 500 Industrials Index	8.95%	40.7%	-39.9%
INFT	S&P 500 Information Technology Index	15.21%	61.7%	-43.1%
MATR	S&P 500 Materials Index	8.49%	48.6%	-45.7%
REAL	S&P 500 Real Estate Index	5.38%	32.3%	-42.3%
TELS	S&P 500 Communication Services Index	8.92%	32.7%	-30.5%
UTIL	S&P 500 Utilities Index	8.75%	29.0%	-29.0%
S&P	S&P 500 Index	9.88%	32.4%	-37.0%

<https://novelinvestor.com/sector-performance/>

ポートフォリオの組み方（セクター）

セクター	景気影響	ボラ	投資難度	組入れ	特徴
ハイテク	大きい	高	中	◎	成長
一般消費財	大きい	中	中	◎	成長
通信	低い	低	低い	○	インカム
生活必需品	低い	低	低い	◎	安定
ヘルスケア	低い	中	中	◎	リスク複雑
公益	低い	低	低い	○	暴落強い
MVP	大きい	高	中	◎	超成長
タバコ	特殊	中高	高い	▲	高配当
資本財	凄く大きい	高	高い	▲	複雑
エネルギー	単純循環	中高	高い	×	先物的
金融	単純循環	中高	高い	×	難しい
素材	大きい	中高	激高	×	先物的
不動産	大きい	中	激高	×	ETFなら

ポートフォリオの組み方

銘柄	運用会社	単価(\$)	信託手数料	運用資産	配当率	年初来
V00	バンガード	408.4	0.03%	\$253.1B	1.3%	19.9%
VTI	バンガード	229.2	0.03%	\$269.9B	1.2%	19.0%
QQQ	インベスコ	375.3	0.20%	\$192.7B	0.5%	20.3%

ポートフォリオの組み方

コア&サテライト戦略

配当メイン




コア：VYM・HDV・SPYD

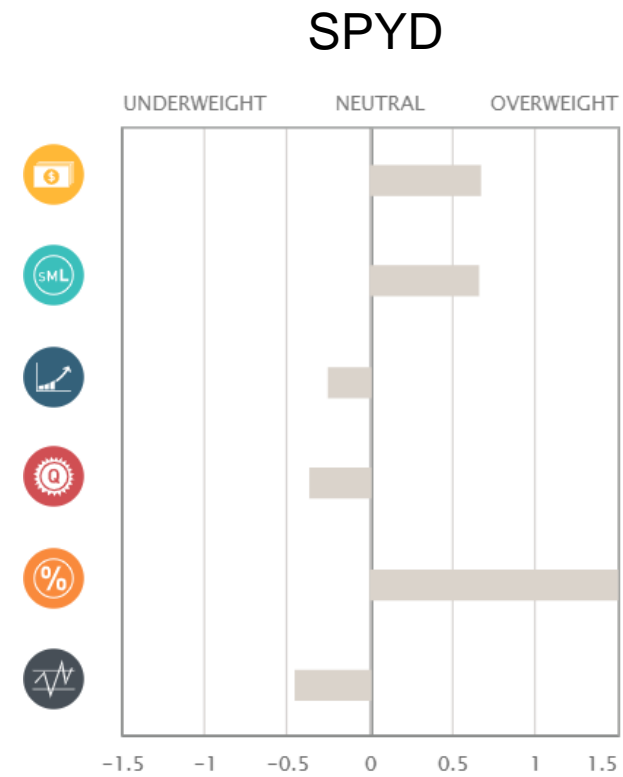
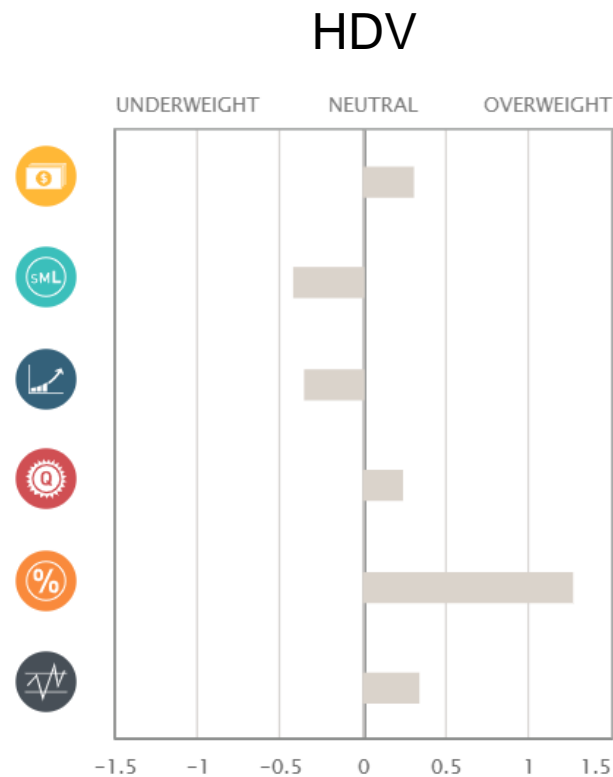
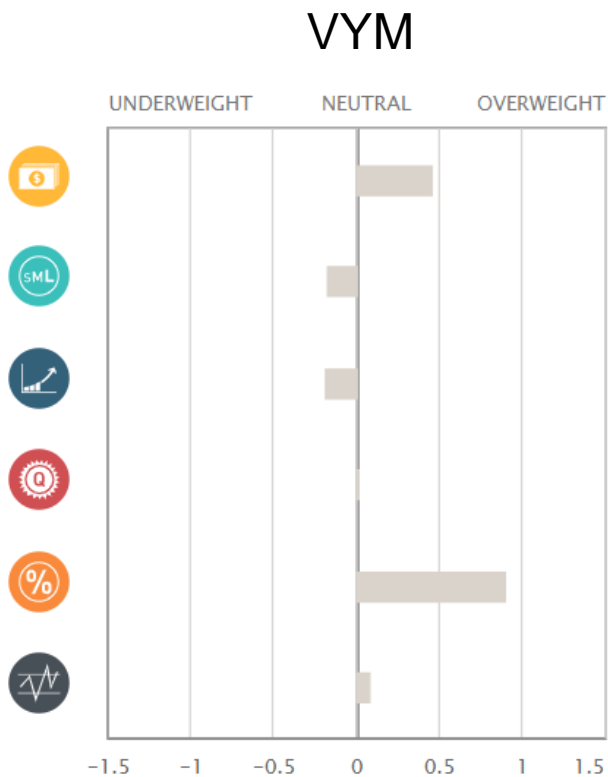
サテライト：個別銘柄でもいいが、インデックETFとの組み合わせ

ポートフォリオの組み方

銘柄	運用会社	単価(\$)	信託手数料	運用資産	配当率	年初来
VYM	バンガード	105.1	0.06%	\$38.3B	2.8%	16.8%
SPYD	ステート ストリート	39.7	0.07%	\$2.2B	4.4%	23.4%
HDV	ブラック ロック	95.9	0.08%	\$7.2B	3.6%	11.4%

ポートフォリオの組み方

-  **VALUE**
Relatively Inexpensive Stocks
-  **LOW SIZE**
Smaller Companies
-  **MOMENTUM**
Rising Stocks
-  **QUALITY**
Sound Balance Sheet Stocks
-  **YIELD**
Cash Flow Paid Out
-  **LOW VOLATILITY**
Lower Risk Stocks



<https://www.etf.com/>

ポートフォリオの組み方

コア&サテライト戦略

個別株メイン

- ・ 成長性重視

コア：マイクロソフト（安定成長） 50%

サテライト：NVDA（半導体分野・AI） 25%

：DNR（ヘルスケアの期待の星） 25%

- ・ 安定感重視

コア：P&G（鉄板銘柄） 70%

サテライト：HD（堅調な成長） 30%

TSM（半導体の第一人者）

ポートフォリオの組み方

- ・アセットアロケーション

一般的にアセットアロケーションを考えるにあたって、現金比率は年齢によって変化すると考えられます。

年齢 = 現金比率

20歳 = 総資産の20%

30歳 = 総資産の30%

40歳 = 総資産の40%

アセットアロケーション

- ・率ではなく額で

ただこちらの比率も年齢だけでなく家族構成によっても異なってくると思います。年齢・家族構成・地域・職種などを考慮しながら、ご自身にとって最も無理がない現金比率で長期的に投資を継続できるかどうかといった観点で最適値を考慮するのがベターだと考えます。

また資金余力は%で考えてもいいですが、余剰資金が総額で幾らあるかも意識した方がいいです。

例えば1000万円の資産を持っている人の20%だと200万円が余剰資金と100万円の資産を持っている人の20%では20万円です。全く意味合いが違ってきます。%ではなく余剰資金の総額と決めた方がいい

ポートフォリオの組み方

- ・年代と資産総額に合わせた投資戦略

資産総額を増加させたいか、生活補助を増加させたいか、この点は非常に大切です。それによって投資信託かETFか個別銘柄、そして高配当か成長株にするかが変わってくるんです。

要するに資産総額を増やしたい場合は資産形成に最も適した投資手法を選択すべきです。生活補助を増やしたい人は資産形成よりは、資産運用に重きをおくという解釈すると、資産を運用することによって生活自体を楽にする投資手法を選択すべきという事になります。

少額投資をする上での銘柄選びのポイント

テクニカル・マクロ分析・書籍・ブログ様々な情報が溢れているので恐らく決めきれないと思います。
少額投資をするという事はまず第一歩として勇気をもって踏み込むという事。

先ほどご紹介したインデックス系のETFはリスクもありつつも、リターンもある程度は期待できる。
高配当ETFも組み換えがされるので、ある程度は配当は計算できると考えています。

ただ個別株の場合は全く別と考えて欲しいと思います。

それは何故でしょうか？

少額投資をする上での銘柄選びのポイント

インデックス系ETFは時価総額加重平均を採用してる
VTI・VOO・QQQなど

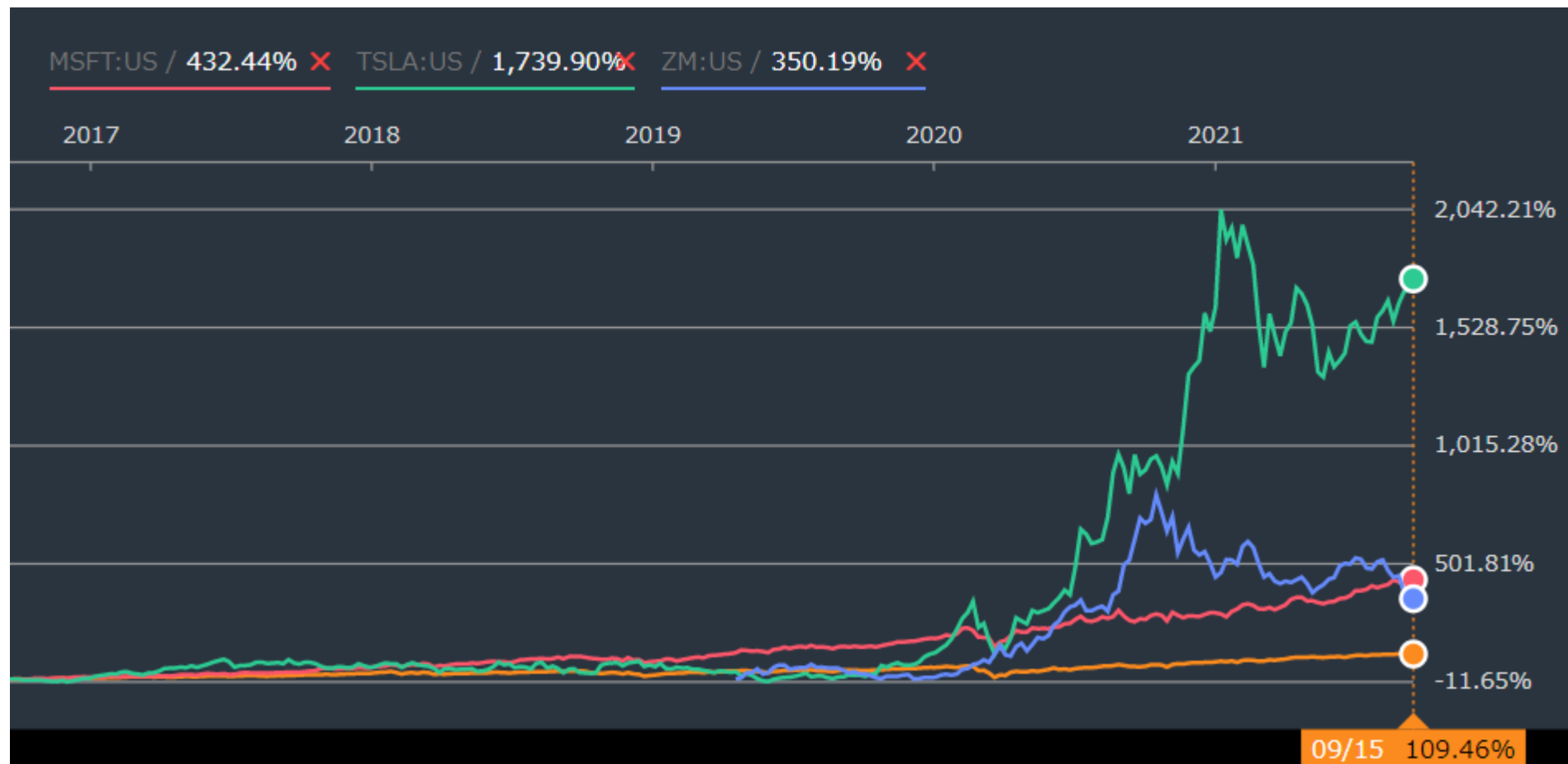
個別株は企業自身の株価分析が必要（企業分析だけではない）

- ・ 決算
- ・ 公募増資
- ・ 独占禁止法
- ・ 海外マーケット状況
- ・ 競合他社
- ・ 市場の成長性

→それでも個別株投資をしたい！

個別株の難しさ

5年間比較チャート



オレンジSP500・赤マイクロソフト・緑テスラ・青ズーム

<https://www.bloomberg.co.jp/quote/SPX:IND>

個別株の難しさ

1年間比較チャート



オレンジSP500・赤マイクロソフト・緑テスラ・青ズーム

<https://www.bloomberg.co.jp/quote/SPX:IND>

資産増加の理由

①株式市場に居続けた

一番の理由は株式市場に居続けた事だと思います。

先ほどお話ししたように、金融緩和・ゼロ金利・資産バブルが発生したタイミングが2020年3月です。コロナパンデミックが引き金になって、史上最大規模の緩和が実施されることになりました。

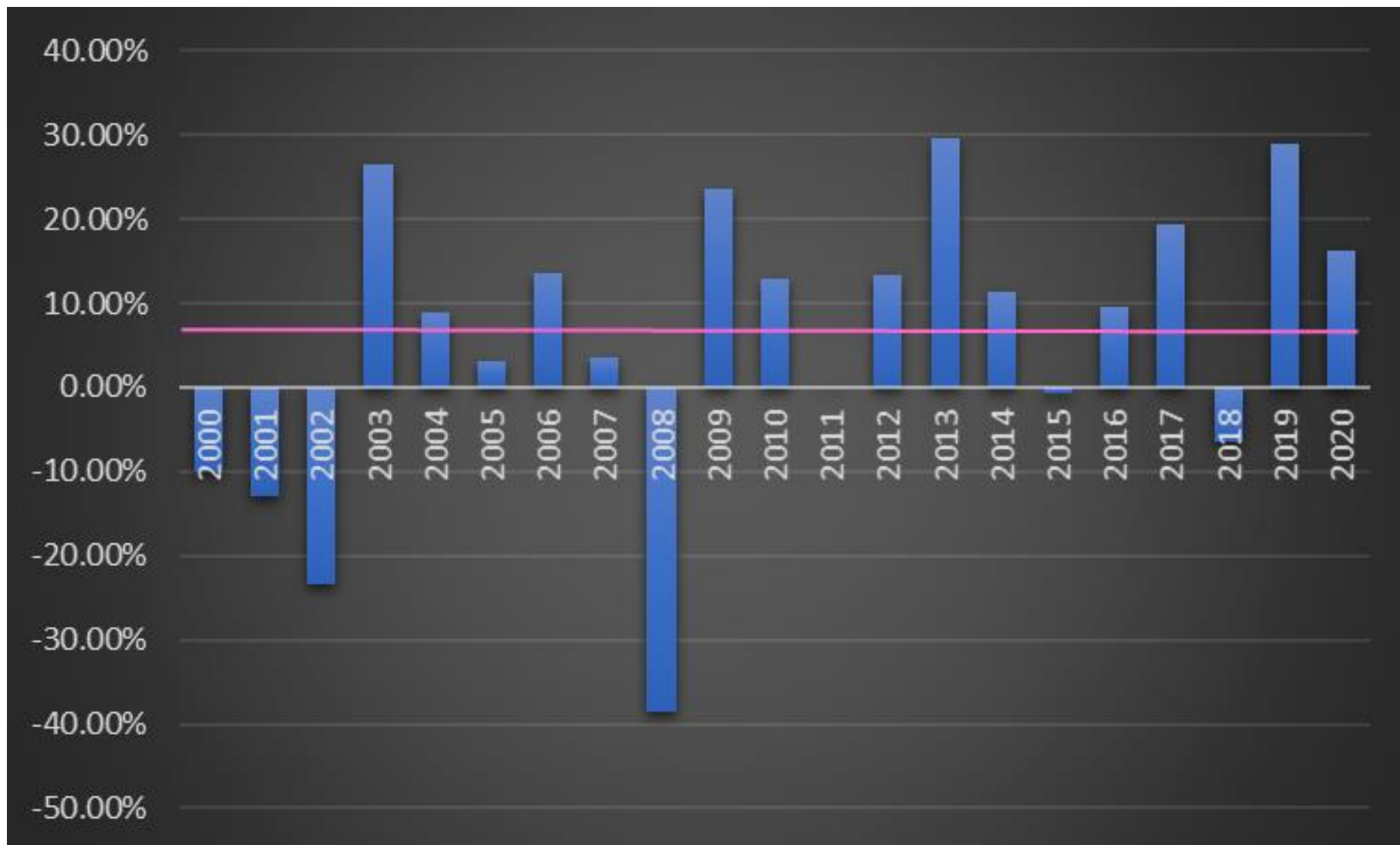
その時に株式市場にいたからこそ資産を増加させることができたんだと思います。

全てに繋がるかもしれないですが、株式市場から退場しない事、株式投資を続ける事。これが一番簡単そうで、一番難しい事だと考えています。

②ゼロ金利・史上最大の金融緩和

→成長株に投資をすることができた。TSLA・NIO・クリーンエネルギー関連

株式市場に居続けるために



<https://www.macrotrends.net/2526/sp-500-historical-annual-returns>